

教 科	家 庭	科 目	ファッション造形基礎
履修条件 対象生徒	選択履修 デザイン科 3 学年		
学習目標	・被服の構成や材料に関する知識・技術の習得、デザインや製作に関する課題を合理的・創造的に解決する力を習得する。 ・衣生活の充実を目指して主体的・協働的に取り組む態度を身に付ける。		
学習方法	〔授業〕（週 2 時間） 講義や実習を通して ・被服の構成、被服材料の選択、洋服や和服の製作に関する基礎的・基本的な知識を体系的に理解し、関連する技術を習得する。 ・衣生活の充実を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的に取り組む態度を身に付ける。 〔家庭学習〕 ・身近な衣服の構成について、日ごろから興味関心を持つ。 ・洋服などのデザインを考え、実習題材に応じた材料の選択（購入）をする。 〔補習・その他〕 ・状況に応じて、個別で補習を行う。		
学習計画 と ね ら い	<1 学期末考査まで> 1 被服の構成 2 被服材料 実習 1 ミシン縫いと手縫いの基礎縫い < 2 学期末考査まで> 3 洋服の製作 実習 2 シャツブラウスの製作 < 学年末まで> 4 和服の製作 実習 3 浴衣の製作 ○被服の構成、被服材料の種類や特徴などの被服製作に関する知識を学習し、実習を通して基本的な縫い方を身に付ける。 ○洋服製作を通して立体構成衣服についての理解を深め、基本的な知識・技術を習得する。 ○伝統的な和服の意義についての理解を深める。 ○和服製作を通して平面構成衣服についての理解を深め、基本的な知識・技術を習得する。		
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	被服の構成、被服材料の種類や特徴、被服製作について体系的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	被服製作やデザインに関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	衣生活の充実向上を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	○ 3 つの観点別評価基準について、出席状況・授業態度・実習の進捗や作品・提出物・定期考査などの学習活動を参考に総合的に判断して評価を行う。 ○ 定期考査は、知識・理解を偏重することなく、3 つの観点が評価できるよう作問を工夫する。		